



みどりの風

平成24年5月7日発行
校報 第486号
〔みどりの風 第29号〕
練馬区立関町北小学校

われは草なり

校長 大野 泰弘

新緑が目まぶしく感じられる季節となりましたが、この季節の緑の美しさ、生きる素晴らしさなどを表した詩があります。

<p>われは草なり 伸びんとす 伸びられるとき 伸びんとす 伸びぬなり 伸びられる日は 伸びるなり</p>	<p>われは草なり 緑なり 全身すべて 緑なり 毎年かはらず 緑なり 緑の間に あきぬなり</p>	<p>われは草なり 緑なり 緑の深きを 願ふなり</p>	<p>われは草なり ああ 生きぬの 美しき ああ 生きぬの 楽しさよ われは草なり 生きんとす 草のいのちを 生きんとす</p>	<p>われは草なり</p>	<p>高見 順</p>
---	---	--	--	---------------	-----------------

私たちの身の回りを眺めてみれば、自らが緑であることに誇りを感じているように、日々、一所懸命生きている、というか、それを楽しもうとしているかのように思われる、たくさんの草木の姿に出会います。

「雑草という名前の草はない」とは昭和天皇のお言葉であると伝えられていますが、草の緑の色合いや草の高さに価値を置くのではなく、太陽の光を存分に浴びながら、昨日よりも今日、今日よりも明日と、その生を全うすることに力を尽くしている新緑の美しさやたくましさを感じます。

過日、あるテレビ番組の中で、作家の瀬戸内寂聴さんが、毎日を一所懸命生きることを「生ききる」という言葉を使って表現されていらっしゃいましたが、まさにこの詩でいえば、「生きんとす」という言葉の響きにも通じるものがあるように感じられます。決して無理をしたり、背伸びをしたりせずに、今の自分をしっかり見つめ、自分らしさを発揮できるように毎日を精一杯生きる、そして、そこに成長の喜びや楽しみを感じる、そんなことなのでしょう。

ところで、今月下旬には、運動会が開催されます。得手不得手はあっても、子どもたち一人一人が、演技や競技の中で、あるいは係活動の中で、それまでの練習の成果を発揮しながら、自分の今を、その成長を、その魂の躍動を思いきり表現させることでしょう。

季節は立夏を過ぎ、夏に向かっていきます。ぜひ、初夏の日差しを浴びながら、今を「生きんとす」る子どもたち一人一人への温かいご声援、励ましを賜りますよう、よろしく願い申し上げます。